



兵庫県立いなみ野特別支援学校 支援部 (TEL:079-492-6161) R8.6.22 発行 第3号

支援だより「いなみ野」をご覧の皆様こんにちは。紫陽花が色づく季節となりましたが、お元気でお過ごしでしょうか。本校では、児童生徒たちの新しい学年での学校生活が2ヶ月を過ぎました。保護者の方々との面談もあり、子どもへの行動に関するご相談を頂くことも増えてきましたので、3号では子どもの行動をとらえるコツやポイントをご紹介しますと思います。



学校行事予定

- ◆7/2 (木) 小6 校外学習 ◆7/7 (火) ~ 8 (水) 介護等体験
- ◆7/7 (火) 学校評議委員会
- ◆7/9 (木) ~ 10 (金) 小5 宿泊学習
- ◆7/17 (金) 大掃除 給食終了 ◆7/21 (火) 終業式
- ◆7/22 (水) ~ 8/31 (月) 夏季休業日
- ◆7/22 (水) ~ 7/31 (金) 夏季教材展示会
- ◆7/23 (木) ~ 24 (金) 中学部教育相談



支援ミニコラム

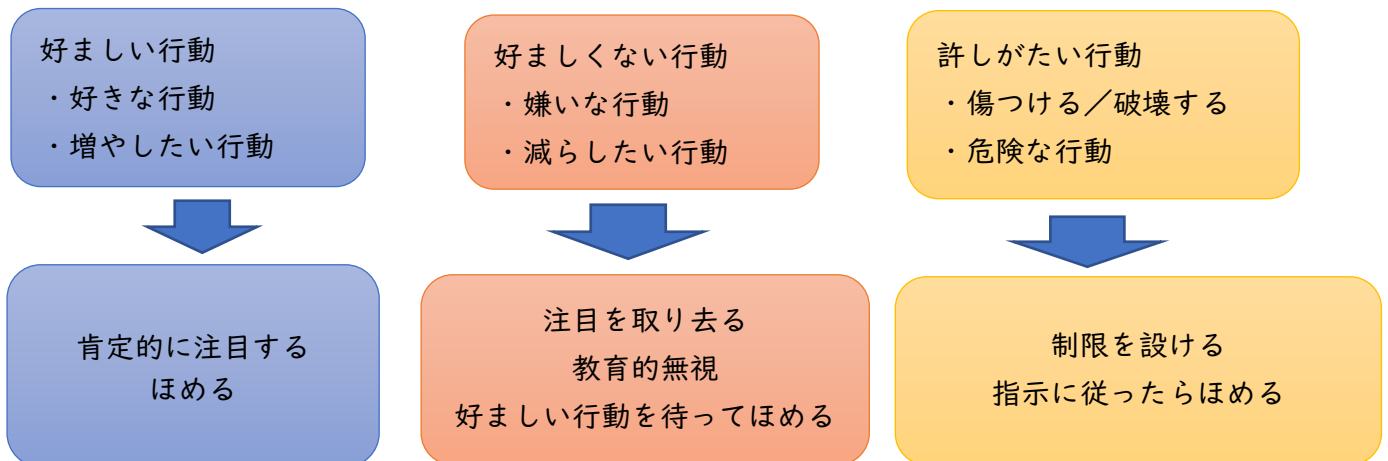
ポイント1

子どもの行動を3種類に分けてみよう！ 子どもの行動を3つに分ける意味

子どものよい行動に目を向け、肯定的に関わることは、親子のコミュニケーションを円滑にします。ほめることには親子のやり取りを温かくする力がありますが、ただたくさんほめればよいというものではありません。ほめる機会を増やすとともに、叱るなどの否定的な関わりを減らすことも大切です。

そのため、子どもの行動を①好ましい行動 ②好ましくない行動 ③許しがたい行動 の3つに分けて考えます。これは「注目された行動は増える」という考え方に基づき、行動に応じて適切に対応するためです。特に、好ましくない行動の中でも、「見守れる行動」と「危険があり止める必要のある行動」を区別することが重要です。

(図) 3つの行動：それぞれの意味



好ましい行動とは、保護者が「もっと見たい」と感じる望ましい行動です。こうした行動には積極的に注目し、認めていきます。好ましくない行動は、保護者が「減らしたい」と感じる行動です。子どもは注目されるために、あえて好ましくない行動をすることがあるため、必要以上に注目しないことが大切です。許しがたい行動とは、保護者が「なくしたい」と思うような、他人や自分を傷つけたり物を破壊したりする行動です。この行動に対しては、毅然とした態度で指示をして、子どもが従えた時にはほめ、従わない時は決められたルールに基づいて対応します。好ましくない行動と許しがたい行動の時に、叱責や重い罰のような否定的な注目をするのは適切ではありません。

行動を3つに分けるのは、子どものよい側面に気づくためにも役立ちます。「ほめるところが見つからない」と感じるときでも、行動を整理して見ることで、好ましい行動を見つけやすくなります。

もし、好ましくない行動や許しがたい行動しか見出せなかったとしても、「好ましくない行動をしていないときには、何をしているのだろうか？」という視点で見ると、「好ましい行動」に気づくきっかけになるかもしれません。

少し冷静になって子どもの行動を観察することが悪循環を断つスタートラインです。

例 小学生の場合（年齢によって、行動の例も変わります）



① 好ましい行動
(ほめる、認める)

- ・朝ごはんをきちんと食べる。
- ・時間になったらゲームをやめる。

②好ましくない行動
(注目を与えずに待つ)

- ・かんしゃくを起こす。
- ・帰りに遊ぶのをやめない。

③許しがたい行動
(制止、制限する)

- ・人がやめてと言っていることをしつこくする。
- ・お友だちや兄弟を叩く。



よいほめ方について

～ほめかたは、態度や言い方も大切～

肯定的な注目には、「ほめる」「認める」以外にも「感謝する」「関心を示す」「その行動に気づいていることを知らせる」など、様々な方法があります。「どの行動が良かったのか」子どもが理解でき、「ほめられた」と子どもが感じられるやり方です。「子どもに近づき」「目線を合わせ」「うれしそうな声と表情で」という態度の部分とほめる内容について留意する必要があります。

*参考文献 子育てに生かす ABA 応用行動分析学の基礎からサポート・ネットワークづくりまで

著 岡村 章司等